



会長 小井田和哉 青少年奉仕 石橋 信雄
副会長 村井 達 幹事 深澤 隆
クラブ奉仕 小林 幹夫 会計 渡辺 孝
会長エレクト 佐々木泰宏 会場監督 接待 一雄
職業奉仕 橋本八右衛門 直前会長 道尻 誠助
社会奉仕 妻神 和憲 副幹事 正部家光彦
国際奉仕 妻神 和憲 会計補佐 紺野 広

例会日 毎週水曜日 12:30 例会場 八戸グランドホテル
事務所 八戸市番町14 八戸グランドホテル内
電話 (43) 0608 FAX (43) 0661
e-mail rc8@vc.hi-net.ne.jp
http://hachinohe-rotary.org/
会報・広報委員長 菊地 幹 同副委員長 峯 正一
同委員 村館 珠樹 同委員 奈良 全洋

国際ロータリーのテーマ — 2021~22 — 八戸ロータリークラブのテーマ

奉仕をしよう みんなの人生を豊かにするために

今できる親睦と奉仕を!

国際ロータリー会長 シェカール・メータ

八戸ロータリークラブ会長 小井田 和 哉

11月 は ロータリー 財団 月間 です

第3204回例会

2021.11.10

会長要件 小井田和哉 会長



先日インターアクトの年次大会がZOOMを使って開催されました。工大二高や他の学校もすべてZOOMで接続していました。石橋委員長と一緒に工大二高に行き参加してきました。

この間の地区大会もZOOMで参加しましたし、わたしも仕事の関係で青森で行っている石油組合の会議もZOOMで行っています。行くだけで往復数時間かかるところを、部屋で実質30分の会議、費用的にも時間的にもひじょうに有効な会議です。ただ会ってお話したいという方も当然いらっしゃると思いますので、そういうところは状況によって使い分けていければいいのかなと思っています。

会って話すということであれば、夜例会がずっとできていませんでした。先日理事会で今年はクリスマス家族例会をぜひ開催しようということで決まりました。夜例会にして、クリスマス家族例会。ただ小さいお子さんやお孫さんを連れてこられる方もいらっしゃる

と思いますが、ちょっと今回は残念ですが、会員と奥様だけに絞って、大人だけでやる方向で検討しています。

年末年始に人の移動があるとまた第6波がくるかもしれませんが、クリスマス例会は何とか開催して、1月新年例会は状況次第でどうなるかところです。引き続き感染対策はしっかりして、年末年始も感染することないようにお気をつけいただきたいと思います。

幹事報告 深澤 隆 幹事

今後の予定は決まり次第、なるべく早く皆様にお伝えします。12月1日は総会も控えていますので、webも含めできる限りご出席をお願いします。

感染者がだいぶ減ってきました。各事業所、皆さま方の職場でも感染対策をどうしたらいいかを戸惑いながらもお仕事をされていると思います。この例会もテーブルに戻すことに関しては今後も検討していきたいと思います。それも含めて来週の理事会で今後の例会の在り方も含めて検討し、決まり次第お知らせ申し上げます。

ご質問いただきましたが、できる限り現状ではこの形で感染対策を取りながら、食事中はなるべく黙食、その後はマスクをしての会食をよろしくお願いします。

今年度の地区補助金を利用しての八戸市の介護予防センターへの寄付を企画していました。市長が変わったこともあり、贈呈式を含めたプログラムを組みづらかったのですが調整を進めていきます。その先駆けとして12月1日に介護予防センター職員に来ていただいて、どんな取り組みをやっているかの卓話を企画しています。

委 員 会 報 告

親睦・会場委員会

廣岡徹也委員



○ニコニコボックスの報告

- ・奥様誕生祝 高谷勝義さん
- ・結婚記念日 松本剛典さん
- 小井田和哉さん タイヤ交換

はお早目に!

小林幹夫さん 今日のロータリーの友をよろしくをお願いします。

山村和芳・赤澤栄治

山本 仁・廣岡徹也さん } ニコニコデー

10月30日インターアクト年次大会出席報告

青少年奉仕委員会 石橋信雄委員長



10月30日に行われました第55回インターアクト年次大会についてご報告します。

メイン会場はむつ市のはねやホテル、今回のホスト校は

田名部高校、提唱クラブはむつ中央ロータリークラブ。今回はZOOMでの大会で、県内20高校のインターアクトのうち、参加校は8でした。当日は八戸ロータリークラブとしては現地で小井田会長とわたしが参加、それぞれの場所から村井パストガバナーと夏堀インターアクト委員長の計4名が参加しました。

当日は工大二校の藤原会長、幹事の渡辺さん、太田先生が参加しました。午前中に各校の活動報告でした。各高はコロナの影響もあ



りほぼあまり活動できていないことでしたが、光星学院はひじょうに活動されていました。これからその刺激を受けて、これから各校で活動されるのではと思います。基調講演は海上自衛隊大湊地方総監海将の乾さんのお話、午後からは田名部高校とむつ中央ロータリークラブで作成された「ジオから見るわたしたちのふるさと」ということで、海上自衛隊のご協力のもと、下北半島をヘリコプターで撮影したというすごい写真を使った発表がありました。その後、閉会式で、いつもよりじゃっかん短い時間でインターアクト年次大会が行われました。

工大二高第二高校インターアクトもあまり活動ができていないということですが、高校生の皆さんもワクチンを接種されていて、もし可能であればクリスマス例会にも出たいという話でしたし、また一緒にやっていきたいというお話しされていました。

工大二高にいろいろな活動を張り付けるボードがありましたが、前回伺ったときに壊れていましたが、そちらの修理が終わったことを確認しました。

水曜会ゴルフコンペについて

松本剛典幹事長

今週13日(土)に第4回水曜会コンペがあります。今回のコンペは第3回が中止となりましたので最終回のコンペとなります。表彰式を兼ねた懇親会は場所を長横町ムンプラザ2階の「柳にかえる」で6時からです。

今回は通常の開催で、来月は最終的な納会として行い年間表彰もあります。日時は懇親

会の席で皆さんから意見を聞いて決めたいと思います。

ロータリーの友11月号について

小林幹夫さん



P11をご覧ください。そもそもポリオってどんな病気ですか？昔ポリオは小児麻痺と呼ばれていた病気です。

「病原体は人のみに感染するポリオウイルス。感染しても発病しないケースも多いが、乳幼児が罹患した場合はウイルスが脊髄などに入り込み、主に手や足に神経麻痺を起こす。一度麻痺が起こると根本的な治療法は存在しない。予防策としてワクチン接種による免疫の獲得がある。」一度罹ってしまうとなかなか治らないというふうな病気です。

「日本にも以前ありました。戦後に届け出感染症に指定され、患者数の流行記録が開始された。1960年に北海道を中心に全国的に大流行し、ソ連から生ワクチンを緊急輸入して感染拡大を抑え込むことに成功しました。その後ワクチンによる予防接種が定着し、野生型のポリオウイルスによる患者の発生は日本の場合は1980年を最後に根絶が終わっています。」

では世界の状況はどうかといいますと、今はパキスタンとアフガニスタンの2か国のみというふうになっています。もう少しでポリオという病気が世の中から無くなるというところで、今ロータリーで一生懸命がんばって活動しています。

そうは言いながらも、実はロータリーとポリオは1979年から始まっている活動です。なので結構歴史は長いです。2000年初頭、2006年にはポリオの流行国はアフガニスタン、インド、ナイジェリア、パキスタンの4か国に減っています。そこまで減っただけけれど、最後ここまできたら何とか世の中から無くそう。天然痘もそうだと思いますが、それと同じようにポリオも無くそうということで、実は2009年にマイクロソフトを作ったビル・

ゲイツさんが3億5,500万ドルを寄付しますよ、その代わりロータリーもほぼ同額の2億ドルを寄付するようお願いして、合わせて5億ドルくらいで一生懸命最後無くしようということになり、ロータリーもそこから熱が出て、皆さんから寄付を集めているという状況です。2014年にはインドからポリオが無くなった。わたしも無くなった瞬間はインドにいました。

今回このロータリーの友にわたしをはじめとして4人が掲載される形になった経緯についてお話します。まず今月は財団週間なので、ロータリーの友の編集局とするとポリオに関して何かを書きたい。せっかくだからインドに実際に行った人のことを書きたいと思っていたところにP9の写真の豊沢さん、田中さん、秋山さんがたまたま編集局に行ったときに盛り上がり、じゃあ、やろうという話になった。当初はわたしを除いた3人でこの企画が始まったと聞いています。

対談形式でやるところまで決まっていて、1回、web上で何か対談したらしいです。Web上で編集局とこの3人+監修している弘前アップルRCの関場慶博さん、東京の永田さんが旅行に行った中で話を聞いていた。この3人はインドに1、2回しか行ってないけれども、さも俺はインドを知っているというみたいにしゃべったらしいです。そうしたら関場さんと永田さんが違うでしょ。もとは日本の活動は関場さんが始めた事業なので、だったら青森県の人か一人入っていないとおかしいのではという話にその場になったらしい。

じゃあ青森の人は誰かとなったときに、成田ガバナーが該当すると思うのですが、あの方は津軽弁がすごい強いので、たぶん編集局がわからないです。若い方がいいというのでわたしが指名を受け、急遽9月半ばくらいに、web会議で夜8時から10時まで参加させていただきました。

わたしがそもそもインドのポリオ活動になぜ参加することになったかといいますと、P9の発言。この中ではわたしが一番多く参

加しているかもしれません。わたしは2008年に八戸ロータリークラブに入会し、初めて参加したのは2010年1月でした。これは確か村井ガバナーの時だと思います。

2009年10月地区大会の時に関場さんと共に2001年からこの活動に係わってきた十和田東ロータリークラブの白山春男さんは、この方も訛が強く、関東圏の方々はわたしを介して通訳している方ですが、わたしもこの地区大会で初めて白山さんにお会いして、ご挨拶をした次の言葉が、おいインドに行くぞ。わたしも二つ返事で分かりましたと返事をしたのを覚えています。何で即決できたかといいますが、入会するときに、ロータリーでは頼まれたり、誘われたりしたときには、あなたを頼っているから断るな、と教わってききましたので、とりあえずわかりました、行くと決断したので今でも覚えています。

それからわたしはインドに2年に1回ペースで、5回ポリオワクチン撲滅活動に参加しています。2020年が今のところ最後です。2020年1月にインドに行きましたが、実はその直後がコロナです。その年の2月、3月は日本が…。今考えれば結構ぎりぎりのタイミングだったのかという気がしています。

実際にインドに行ったときに、どういうふうな活動をしているのかというのがP9に載っています。秋山さんが書いていますが、だいたい3日間の日程で行われます。初日はウォークラリーと呼ばれるもので、翌日実施のNIDS（ポリオ注射接種日）をアピールするために子どもたちと一緒に町を歩きます。2日目は子どもたちが指定する場所に集まり



ます。公民館みたいなところに子どもたちを集め、そこで集団接種を行っていきます。ブースで投与活動を実施します。3日目は戸別訪問で、保健師さんと一緒に2、3人が1つのチームになって各家庭を回ります。このように3日間のペースで行っていきます。

ワクチンはどんなワクチンかというと、生ワクチンと不活化ワクチンの2つあります。日本は不活化ワクチンという注射です。わたしはドクターではないのでこの注射はできるわけではありません。でも生ワクチンはスポイトから下にポトンポトンと2滴薬を落とすだけの作業で、お医者さんでなくてもできる作業なので、わたしはこれに参加することにしました。

どのくらいの間人にうつかということ、たぶん30人くらいだと思います。

P12 2001年から2830地区が毎年インドに行っています。実は2021年の今年がコロナのせいで初めてたぶん欠席した年だと思います。わたしはその途中の2010年くらいに行きましたが、その時はまだインドでポリオがあったんです。2014年にポリオがなくなりましたが、そのときのロータリーの役割は実際にポチポチやる活動要員というよりは、黄色の服を着て行うワクチン投与の活動のための広告塔みたいな感じ。それがNIDSの繰り返しによって徐々に啓発が進み、ワクチンへの理解も進んできました。継続して寄付したことはもちろん、ロータリーに求められることも徐々に本格的な投与要員へ変化していったようです。

わたしには10年以上のつきあいのある、デリー在住のロケッシュさんというロータリアンがいます。この方も今から10年くらい前に八戸に来ました。北山ガバナーのときに招待して、ロケッシュさんに来てもらって講演をしてもらいました。ただこのロケッシュさんはベジタリアンで、しかもそんじょそこらのベジタリアンではなく、魚もだめ肉もだめ、本当に野菜しか食べないという方だったので、結局こっちに来て何を食べたかということインド料理屋で野菜カレーを食べてもらいま

した。

P13 昔わたしは地区ローターアクト委員長だった時代がありましたが、その時に若い人を連れて行っています。当時20代のローターアクトを連れて行きました。わたしが覚えている限り2人くらい連れて行きました。わたし自身がロータリーに入ったのは35歳ですので、やはり若いうちに若い人を連れて行きたいなと思っていました。意欲的な若者が行きたいと手を挙げても、結局はロータリアンが了承しないと実現は困難でしたので、地区委員のときにはお金の捻出で結構苦労しました。悩んだ記憶があります。お金の面ではやはりクラブや地区が協力してあげないと、なかなかローターアクトを連れて行くのは難しいと思っています。

P14 最後に皆さんにメッセージをお願いしますという問いに対して。わたしとしますと、実際にロータリーに入っていないければこういったポリオ撲滅活動に参加することは絶対できなかったと思っています。ロータリーに入って、人生の選択肢が増えたというふうに考えています。これはポリオ撲滅活動に限らず、ロータリーに入ったらやはり普段では体験できないことができる、ということが最高の選択肢ではないかと思っています。

実際にインドに行ったときの注意点。秋山さんはきれいな格好しているのでちょっと浮いています。最初は秋山さんの職業を知りませんが、よくよく聞いたらCAだったと聞いて納得しました。この人がここ数年一生懸命やってくれているような感じがします。

仮に皆さんがインドに行くことになった場合、何を持っていけばいいかというと、日本製のミネラルウォーター、これは必須です。1日2本換算でガラガラケースに日数分を積んでいきます。何回か行きましたが、最後はやはり日本製のカップラーメンは必須です。インドに行っても大して料理はおいしくないのです、やはり日本食が恋しくなります。あとは地酒。インドに八鶴のどぶろくのような白いお酒を4合瓶で2、3本持って行って、夜

に部屋に集まって、そこには全国から来た30人くらいの方がおられるので、そこで日本酒を交わしながらいろいろ情報交換するのが最高の思い出かなと思っています。

* 廣岡徹也さん

P16-17 世界インターアクト週間

11月5日を含む1週間は世界インターアクト週間です。インターアクトクラブは12~18歳の中高生が地元でのボランティア活動や海外での交流などを通じて、リーダーシップを学んでいくというプログラムです。世界では16,361、日本国内では586のインターアクトクラブがあるということです。

P16 個々の取り組みを紹介します。さいたま市立浦和高校取り組みです。国際交流の観点ですが、高校日本一の英語ディベート力で世界に挑む。昨年第15回全国高校生英語ディベート大会オンラインが開催され、日本全国の64高校が「化石燃料自動車の是非を問う」という論題で議論をして、さいたま市立浦和高校が4度目の全国優勝を成し遂げました。その後、今年マレーシアでアジアワールドスクールディベートオープン2021というものが開催され、その日本代表ということで出場し、世界の社会問題や世界平和についての議論をしたという内容が出ています。

P17 長野県松商学園高校の取り組み。クラブ活動の1つに地域での奉仕活動がありますが、松商学園では開発途上国へのワクチン支援のためにペットボトルキャップの回収を行ったり、長野県障害者スポーツ大会の補助や松本城天守閣の掃除などに参加しました。



国際交流と言うことに関しては、ロータリー青少年交換留学生の受け入れを行って、海外研修も実施しております。韓国、ベトナムへ行き、戦争と平和について学ぶような機会があったようです。ただ去年はコロナの状況で海外活動ができずに、来日の留学生との交流を中心に行っています。特に生活難の海外からの留学生のために、全校生徒から物資を募って食品や文房具などを集めて留学生に寄贈する取り組みを行っています。交流会自体はたいへん好評だったこともあり、今年の5月29日に2回目の交流会が実施されました。生徒がダンスを披露したり、学校内や部活動の様子、松本城などの観光の映像を紹介したような取り組みが行われました。

P 30-31 米山便り 今回出ていたのはタイ コーン県のカムプラ・アイダダーさん。アイダーさんはタイの高校を卒業し、タイの精神的支柱ともいえる仏教を視点を変えて学びたいという思いをもって日本に留学しました。日本の東洋大学の学部課程を卒業し、修士課程まで出て仏教学を学び、その後、タイに戻って寺院のスタッフとして“シャミ”と呼ばれる出家したての修行僧向けに日本語を教えている。今はコロナのため実家のあるタイのコーン県から少し離れたシーションピーという町に戻って、農業と雑貨店を手伝っているそうです。

シーションピーという町は山や滝がたくさんある農業中心の地域ですが、ここの観光地ではワット・タム・セータム寺院がひじょうにお勧めの観光地だそうです。ワット・タム・セータムは、ワット＝寺院、タム＝洞窟、セータム＝仏陀の教えの光という意味だそうです。

タイの伝統工芸品のタイシルクについても少しコメントしています。タイの蚕の繭から製造されるのがタイシルクですが、これがタイの東北地方にあるコーン県がタイシルクの

有名な地域だそうです。タイシルクは色がひじょうに鮮明で、ひじょうに重宝されています。アイダダーさんが米山記念奨学会の財団設立50周年の式典に出席したときは、お母さんが作ったタイシルクのスカートで式典に出席したそうで、ひじょうに大切な日を母と共に過ごせたように感じてとても嬉しかったと述べています。

村の小学校の支援も行っていて、コロナで収入を失うような家庭がかなり増えていたということもあって、学友会のメンバーや日本のロータリアンの応援メッセージを添えた支援物資を子どもたちに渡したそうです。

アイダダーさんがロータリーに参加して、ロータリーは国境をもたない大きな家族というのを感じている。元々は米山学友会はそもそも奨学金をもらうだけという感覚だったということですが、米山奨学生になったことでいろんな方と交流することが増え、人生の価値観が大きく変わったというふうに言っています。ロータリーで「入りて学び、出でて奉仕せよ」という言葉を学んで、世界中どこにいても奉仕をしよう、みんなの人生を豊かにするためにがんばろうと思っているそうです。

ちょうどこの記事を見たときに、以前いただいた書類「ロータリー米山記念奨学事業豆辞典」を見ました。今回のアイダダーさんはタイの方ですが、豆辞典のP11に記載されている米山奨学生の数は全世界では中国の方が一番多いのですが、85か国に米山奨学生がいて、2021年1年だけで約910名の奨学生がいる。今までの累計で22,267名が海外で米山奨学生になっているということでひじょうにグローバルであり、奨学生の数をみてもいい取り組みをしているというふうに感じました。米山奨学生で一番多いのは中国、タイは世界で7番目です。